

犬の運動器疾患と投与期間

| 病名 | 病期 | 関節の状態 | NSAIDsの投与期間 | |
|---------|---------------|-----------------------------|-------------|--|
| | | | 目安* | 考え方 |
| 変形性関節症 | 慢性期 | — | 6~8週間以上 | 鎮痛だけではなく、関節機能の改善(可動性、筋量の回復)の目途がつくまで |
| 股関節形成異常 | 成長期 (1歳以下) | 関節の整合性が高いもの | 数週間 | 症状が緩和(筋量が充実して疼痛が解消)されるまで |
| | | 関節の緩みが大きいもの | 4週間 | 保存的管理としてのNSAIDs投与、あるいは手術実施(TPOなど)までの期間 |
| | | 脱臼・亜脱臼を発症しているもの | 4週間以上 | 継続的な疼痛軽減を行う、または救済的手術を実施するまでの期間 |
| | 成熟期 | 関節変形がそれほど大きくないもの | 4週間 | 症状が緩和されるまで |
| | | 関節変形が大きいもの | 8週間以上 | 継続的な投与 |
| 肘関節異形成 | 成長期 (1歳以下) | 構成骨の成長不整が少ないもの | 数週間 | 症状が緩和されるまで |
| | | 構成骨の成長不整が大きいもの・骨軟骨片の分離があるもの | 4週間 | 手術実施までの期間 |
| | | 関節内側の関節面における軟骨変性が著しいもの | 4週間以上 | 救済的疼痛管理としてのNSAIDs長期間投与、または手術実施までの期間と手術後に疼痛が軽減されるまで |
| | 成熟期 | 関節構成骨の不整がそれほど大きくないもの | 8週間 | 症状が緩和されるまで |
| | | 関節構成骨の不整が大きいもの | 8週間以上 | 継続的な投与 |
| 前十字靭帯断裂 | — | 保存的管理 | 8週間以上 | 関節機能の改善まで |
| | | 手術前 | 6週間程度 | 初期の治療として |
| | | 手術後 | 4週間 | 症状が改善されるまで |
| 膝蓋骨脱臼 | — | 症状発現時 | 2週間 | 症状が緩和されるまで |
| | | 手術後 | 2週間 | 症状が改善されるまで(術後の関節腫脹が軽減されるまで) |

※実際のNSAIDs投与期間は、個体の年齢・状態にしたがって決定すること

監修 北海道大学 奥村 正裕 先生